年間授業計画 新様式例

高等学校 令和６年度（２学年用） 教科 芸術 科目 音楽Ⅱ

教 科： 芸術　　科 目： 音楽Ⅱ　　単位数： 2 単位

対象学年組：第 2 学年 1 組～ 7 組

教科担当者：（1･2組：神田）　（7･8組：神田）　（ 組： ）　（ 組： ）　（ 組： ）　（ 組： ）

使用教科書：（ MOUSA2 ）

教科 芸術 の目標：

【知識及び技能】多様な芸術の知識と技術を学び、自ら芸術作品を生み出したり、他者の芸術を理解し鑑賞することができる。

【思考力、判断力、表現力等】芸術の良さの源泉について思考し、感動をもたらす要素について知識をもとに判断し、その感動を他者に対して効果的に表現することができる。

【学びに向かう力、人間性等】多様な芸術についてそれぞれの魅力を理解し、鑑賞や創作を通じて生涯において芸術を尊重し愛好する心情を育む。

科目 音楽Ⅱ の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
多様な音楽の知識と技術を学び、独唱・独奏から多人数でのアンサンブルを楽しむことができる。	音楽の良さの源泉について思考し、音楽の諸要素と関連付けながら適切な要素を判断し、効果的に表現することができる。	多様な音楽についてそれぞれの魅力を理解し、鑑賞や演奏を通じて生涯において芸術を尊重し愛好する心情を育む。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	表現 歌	表現 器	表現 創	鑑賞	評価規準	知	思	態	配当時数
1学期	【知識及び技能に関する目標】発声のメカニズムについて理解し、身体をどのように使えば響きのある声がでるのかを学び実践する。相対音感について学び、他の音を聴いて自分の音を出せるソルフェージュ能力を伸長する。 【思考力、判断力、表現力等に関する目標】響きのある発声で、他のパートとハーモニーを作りながら歌うことが出来る。 【学びに向かう力、人間性等に関する目標】響きのある発声の良さ、合唱時の合わせやすさに気づき、互いの声を聴きあいながら歌うよう努力している。	○歌唱・合唱の技能を学ぶ	○			○	発生時の姿勢、呼吸、口腔の開き、鼻腔の響きに留意し、積極的に声を出しながら歌えている。 他のパートの音を聴きながら、つられずに自分のパートを歌い、ハーモニーを作ることができる。 合唱演奏を鑑賞し、ハーモニーの良さ、表現の工夫などを感じ取ることができている。	○	○	○	12
	【知識及び技能に関する目標】リコーダーの奏法を理解し、音楽表現に留意しながら演奏することができる。アンサンブルで息を合わせたり、表現を合わせたりすることで美しい演奏をすることができる。 【思考力、判断力、表現力等に関する目標】アンサンブルの合わせ方、表現の工夫などを考え、実践することが出来る。 【学びに向かう力、人間性等に関する目標】他者と合わせて演奏し、表現を磨き上げることの楽しさを味わい、積極的に美しい音楽を作ろうとしている。	○リコーダーアンサンブル		○		○	リコーダーで自分のパートを正しく演奏できている。 アンサンブルで息や表現の仕方を合わせて、一体となった演奏ができている。	○	○	○	12
2学期	【知識及び技能に関する目標】各国の芸術歌曲について言語的、音楽的な要素から分析し、その魅力を理解する。歌唱を通してそれぞれに適した発声の工夫を学ぶ。 【思考力、判断力、表現力等に関する目標】世界の多様な芸術について、歴史や音楽的要素からその魅力を発見し、効果的に表現することができる。 【学びに向かう力、人間性等に関する目標】多様な芸術について理解することで、人類の多様性についての理解を深め、相互に尊重する姿勢を育む。	○世界の芸術歌曲	○			○	各国の芸術歌曲についてその魅力を理解し、効果的な表現を用いて歌うことができる。	○	○	○	14
	【知識及び技能に関する目標】アポヤンド奏法、アル・アイレ奏法について学び、それぞれの音色を活かした演奏ができる。 【思考力、判断力、表現力等に関する目標】アポヤンド奏法、アル・アイレ奏法の音色の違いを理解し、それぞれの音色を活かしたアンサンブルができる。 【学びに向かう力、人間性等に関する目標】お互いの演奏を聴きあい、相手の音色を活かすようなアンサンブルを行うことで互いに尊重する姿勢を育む。	○ギターアンサンブル		○		○	アポヤンド奏法、アル・アイレ奏法について理解し正しく演奏することが出来ている。 お互いの演奏を聴きあいながら、互いを活かすようにアンサンブルすることが出来ている。	○	○	○	14
3学期	【知識及び技能に関する目標】これまでの学習内容を活かし、リズムや音程に工夫をしながら創作活動を行う。 【思考力、判断力、表現力等に関する目標】表現したい内容に適したリズムや音程を判断し、効果的に活用しながら創作活動が出来る。 【学びに向かう力、人間性等に関する目標】自らの内面にある音楽を形にして表現することで芸術に対する理解を深め、創作活動の大切さを知る。	○創作	○	○	○	○	自らのイメージを元に積極的に創作活動に取り組んで切る。 自らのイメージを元にリズムや音楽の諸要素を効果的に使って創作ができている。	○	○	○	18
											合計 70